

同和問題の現状と課題

鳥取県部落解放同盟

鳥取県連合会執行委員長 中田幸雄氏

私が解放運動に関わってきた頃は、差別があつて当たり前という時代でした。現在では人権意識の輪が広がり、差別解消は国民的課題として取り組まれるようになってきました。ところが差別事件は今も後を絶ちません。全国の同和地区名が記載された悪質な差別図書「部落地名総鑑」のフロッピーディスク版の存在も発覚しました。

教育現場でも取り組みをされているが、校内での差別落書きやメールを使った人権侵害、日常の遊びの中でも差別用語を発するなど差別事件も起きている現状もあります。長いたたかひの末、同和地区の劣悪な生活環境を改善でき、また若者も様々な職業に就くことができるようになってきたにもかかわらず、これから先も同和对策を続けなければならぬ現状を考えると、もつと突っ込んだ取り組みが必要であると考えます。



研修「差別の現状と課題」

人権講演会後の研修では、森田勝彦実行委員長の司会で、部落解放・学校教育・社会教育それぞれの視点からとらえた差別の現状と課題が話し合われました。

社会教育での現状と課題

西部教育局 地域教育担当 清水和祥氏

社会教育における人権教育の取り組みは大



子どもの現状と学校教育での課題

鳥取県教育委員会人権教育課 安達才智氏

県では、同和教育の取り組みの中で人権教育が進められてきました。その手法を守りながら更に発展させていきたいと考えています。携帯電話やメールなど、機械的な部分で子ども同士つながっていますが、実は孤立しているという現状も見られます。このほか、規範意識・マナーの低下など様々なことが言われています。

学校の人権教育の中では、知識を多く教えてきた反面、それが実践につながっていないと感じます。この実践力が今の課題です。

また、家庭・地域においては、「子どもは家庭と学校とどちらが好きなのか？どちらを信じるのか？」を考えて欲しいと思います。最終

大きく分けて次の4つ。研究会のように参加者に来てもらうもの。小地域座談会など、地域に出かけていくもの。解放文化祭などの交流事業。広報活動など、文書にして届ける取り組みです。これらは郡内すべてのまちで取り組まれています。

こうした取り組みの中で各町に共通する課題は、参加者の固定化・高齢化。特に20代の参加者がほとんどないことが一番の悩みです。参加者が固定化すると事業のマンネリ感につながります。こうならないためには、取り組みの自己評価、参加者による評価が必要です。

自治会などの役目で参加した人もあると思いますが、これを義務と思わず権利だと考えれば違った気持ちで参加できると思います。今日の結果を家庭に持ち帰り、何かひとつでも自分の行動を変えていってほしいと思います。

的には親を信じて欲しい。それが家庭・地域力だと考えます。そのために学校との協力・信頼関係を築くことが子どもの成長に必要だと思っています。



参加者アンケート集計結果

参加者数 = 196 人 (男性 129 人、女性 67 人)

アンケート回答数 = 89 人 (回答率 45%)

あなたの性別は？

男性 55%	女性 45%
-----------	-----------

あなたの年代は？

20代 7.9%	30代 5.6%	40代 16.9%	50代 24.7%	60代 23.6%	70代以上 21.3%
-------------	-------------	--------------	--------------	--------------	----------------

研究集会に参加するのは何回目？

今回がはじめて 27%	2回～4回 42.7%	5回～7回 14.6%	8回以上 15.7%
----------------	----------------	----------------	---------------

どのような所属（立場）での参加ですか？

民間企業・団体 22.5%	保育所・ 学校職員 7.8%	子どもの 保護者 7.8%	行政関係 16.9%	自治会 27%	その他 18%
------------------	----------------------	---------------------	---------------	------------	------------



軽妙な露の新治さんの講演に笑顔の参加者

参加者の声

アンケート結果から

今回の集会では、参加者の感想や意見を聞き、今後の参考にするためアンケート調査を行いました。前回の集会と比較すると、参加者のうち、20代の参加者が7.9%に増えていきます（前回は2.5%）。しかし、今回初めて参加したという人は27%と、前回の40.5%に比べ減少しており、参加者が固定化していることがわかります。

アンケートに寄せられた
主な意見

わかりやすい講演で、笑いながら聞いた。楽しい話の中にも考えさせられることも多くあり勉強になった。

聞くだけの研修になってしまった。少しは参加者の意見を聞きたかった。

今までと違った研修だったがたいへん良かった。中田氏、安達氏、清水氏の身近な問題を聞くことができ、改めて自分自身に問いかけられる差別感情など考えることができた。

講演を聞き、自分自身の心を変えることがいちばん大切ということがわかった。参加者が少ないのが残念。若い人の参加が少ないことと途中で帰る人が多いことが課題。自己変革のためには、まず自分を振り返ること。参加型の集いを望む。

年代ごとに研修会をしてみてはどうか。老若共に支えあって、まちのため差別を徐々になくすよう努力したい。